



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

卒業生・修了生調査にみる学びの成果

卒業生・修了生に対する就業状況調査より
(2021年10月27日)

担当：松田 岳士

大学教育センター・教学IR推進室



この発表は...

■卒業・修了後3年目の(元)学生・院生を対象にした調査結果から

1. 在学中に**何に力を入れて、何に力を入れておけばよかった**と考えているか
2. 就職してから**必要な能力**と在学中に**習得した能力**

を紹介し、在学中と卒業後3年間のギャップを検討

調査の概要

- 対象：2018年3月（あるいは2017年9月）に首都大学東京（当時）を卒業・修了した者
- 実施期間：2020年12月17日－2021年2月7日
- 有効標本数：1354件
- 回収件数・回収率：509件（37.6%）
学部卒338件（66.4%）、大学院修了：166件（32.6%）、無回答5件
- 実施主体：東京都立大学 学生サポートセンター キャリア支援課
- 匿名形式：謝礼のQUOカード希望者は実質実名

（参考）

2019年度実施時は、回収件数453件（回収率32.2%）

1. 1. 在学中にも力を入れたこと

- 9つの選択肢から上位ふたつ(最もあてはまる・2番目にあてはまる)を選択させる質問形式

→理論的には72通りの組み合わせ

- 選択肢は以下のとおり

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 専門知識の習得 | 2 一般教養の習得 |
| 3 部活動・サークル活動 | 4 資格試験準備 |
| 5 インターンシップ | 6 他大学の学生との交流 |
| 7 多くの社会人との交流 | 8 アルバイト |
| 9 その他 | |

1. 在学中に力を入れたこと

- 二つの選択肢の組み合わせ(20人以上が該当した7種類)
→5つのグループに分ける

最もあてはまる	2番目にあてはまる	人数	GP
1 専門知識の習得	3 部活動・サークル活動	84	1
1 専門知識の習得	2 一般教養の習得	75	2
3 部活動・サークル活動	1 専門知識の習得	60	1
3 部活動・サークル活動	8 アルバイト	49	3
1 専門知識の習得	8 アルバイト	45	4
3 部活動・サークル活動	2 一般教養の習得	24	5
1 専門知識の習得	4 資格試験準備	22	—

1. 在学中に力を入れたこと

■ 個々の回答の特徴

1. 専門知識の習得:「最もあてはまる」として最多(261名)
2. 一般教養の習得:「2番目にあてはまる」として2位(106名)
3. 部活動・サークル活動:「最も」・「2番目」とともに上位(155・100名)
8. アルバイト「2番目にあてはまる」として最多(114名)

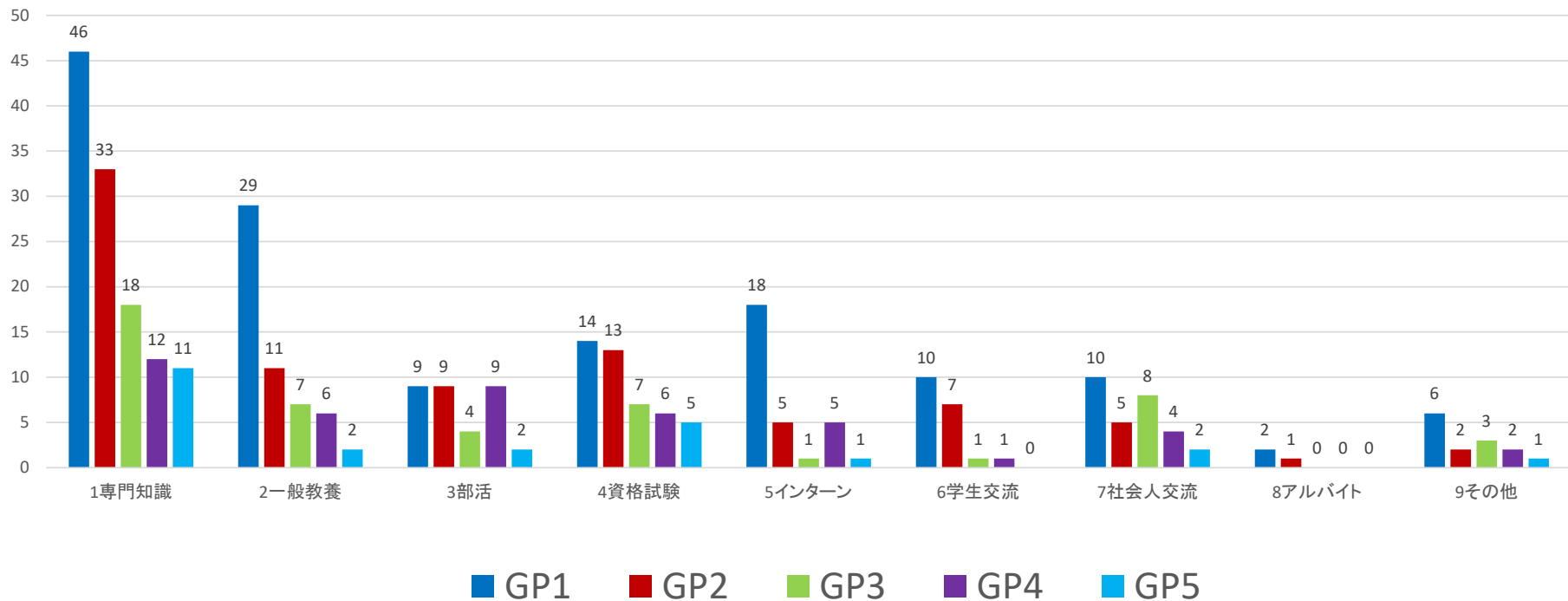
■ 大学院・学部の特徴

- ✓ 大学院修了者→専門:サークル:アルバイト=147:71:33(約5:2:1)
- ✓ 学部卒業生→専門:サークル:アルバイト=206:182:99(約6:5:3)
- ✓ 専門知識に対するアルバイトの比率30%以下は健康福祉学部だけ

1. 力を入れたこと

× 力を入れればよかったこと

力を入れてやっておけばよかったことと:最上位の活動



1. 力を入れたこと

× 力を入れればよかったこと

■ 「力を入れておけばよかったこと」に注目すると

特徴1. **すべてのグループ**で、**専門知識の習得**が最も多く選ばれた

特徴2. 専門知識以外では**力を入れていなかったこと**に対して「力を入れておけばよかった」と回答する傾向があった

→専門知識の習得を選択した回答の割合が最も高かったのは、力を入れたこととして専門知識の習得が含まれていないGP5

特徴3. 「力をいれたこと」としてアルバイトが含まれたGP3やPGP4では、「力をいれておけばよかったこと」として**アルバイトがまったく選ばれず**、他大学の学生との交流もほとんど選ばれなかった

2. 必要な能力・習得した能力

- 19種類の能力について質問
- 「大学生活の中での習得度」と「仕事をする上での重要度」: どちらも5段階
(3: どちらともいえないが原点)

- ✓ 横軸: 大学での習得度
- ✓ 縦軸: 仕事での重要度



より充実を求めている能力

仕事で重要であるが、
大学では習得できなかった
<ゾーン2>

卒業後すぐに活かした能力

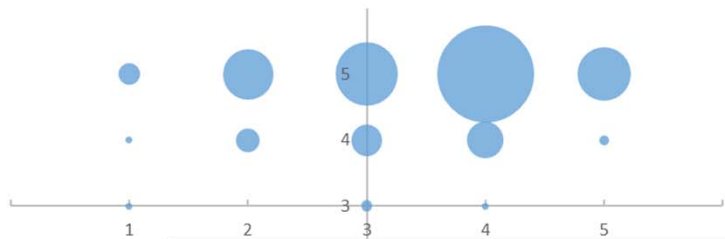
仕事で重要で、
大学で習得できた
<ゾーン1>

仕事で重要ではなく、
大学でも
習得しなかった
<ゾーン4>

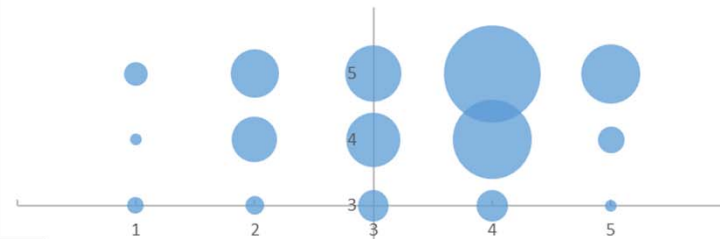
仕事で重要ではないが、
大学で習得できた
<ゾーン3>

ゾーン1に回答が集中：半数以上

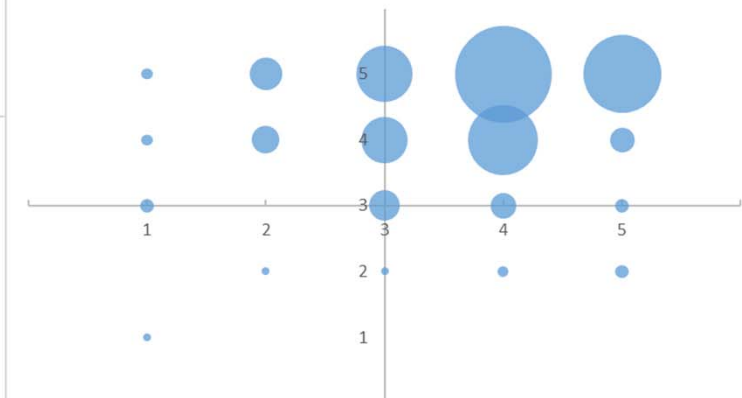
①わかりやすく伝える力



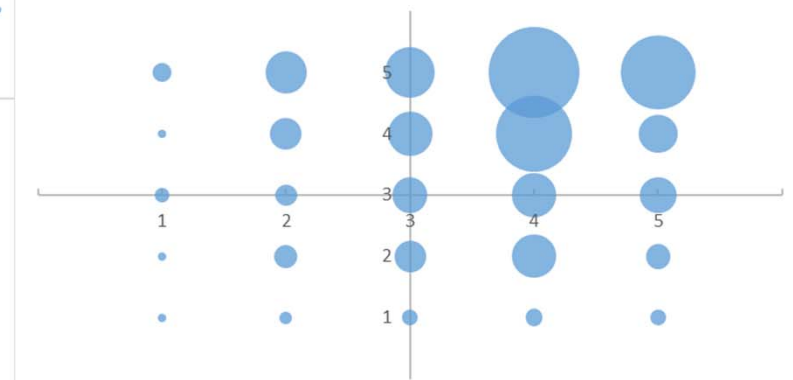
⑤情報分析力



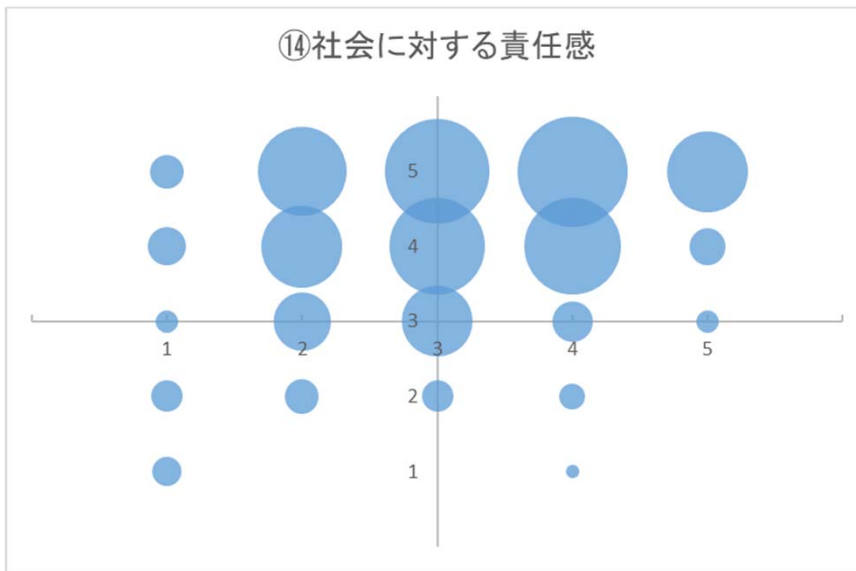
⑫問題に取り組む姿勢



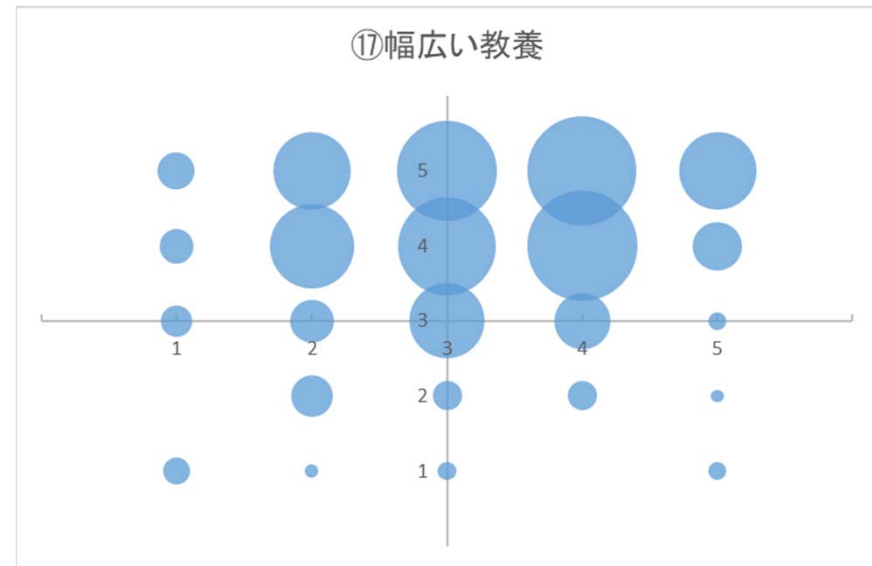
⑯専門的な知識理解技術



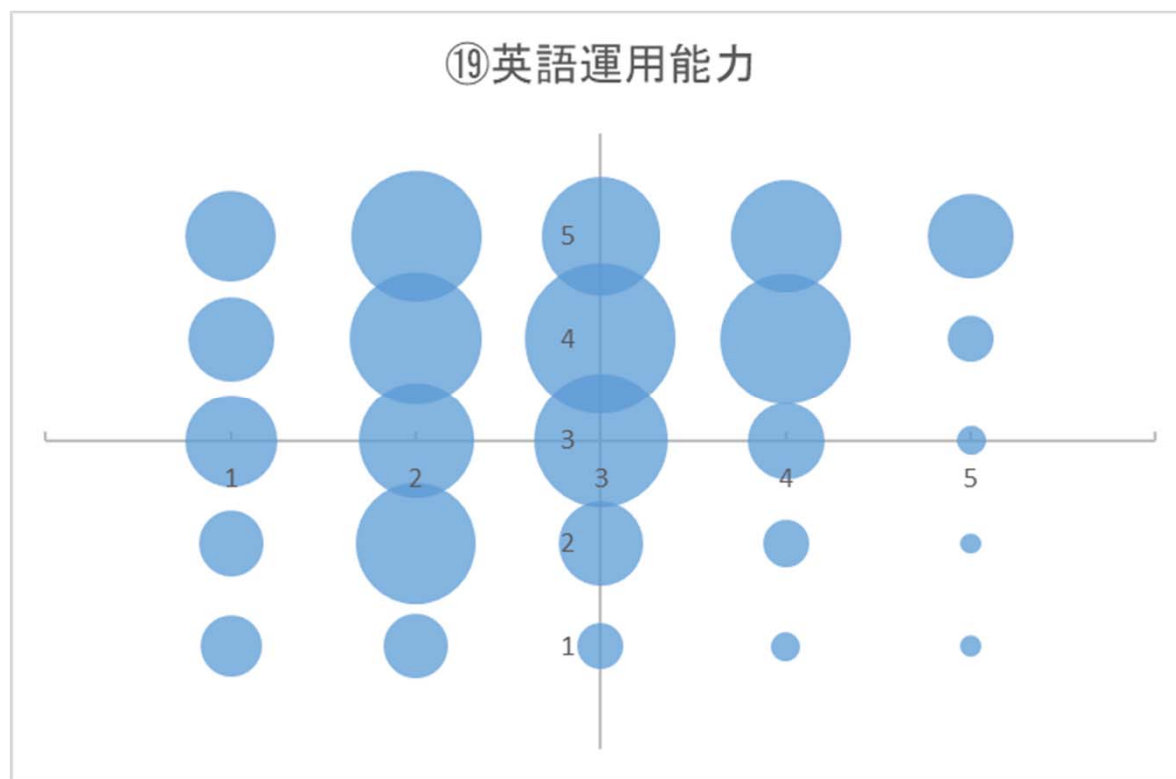
ゾーン2にも回答が分布:2つの力



- 仕事で重要であるが、学生時代に習得的ななかったケースがある程度存在



ゾーン1・2・4に回答が分散：英語



- 回答者の日常業務で英語が必要な場合と、必要でない場合に対応して回答が分かれたことを示唆

解釈するにあたって...

- 考慮すべき点が多い
 - ✓ 6割以上が無回答→現状に問題がある卒業生の多くが無回答なのではないか(サンプルへのバイアス)
 - ✓ 学部卒業者も大学院卒業者も一緒に分類・分析→文系学部は学部卒・理系学部は大学院卒が中心
 - ✓ 発問の仕方→「在学中」をひとくくり、上位2項目だけを選択する方式(限定された順位法)
 - ✓ 卒業生が置かれている状況→例:英語の必要性

Comments / Questions?



mat@tmu.ac.jp

